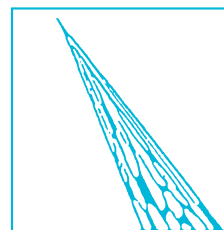


LIAISON



(ホームページ <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>)

Vol.31 Jul. 2006

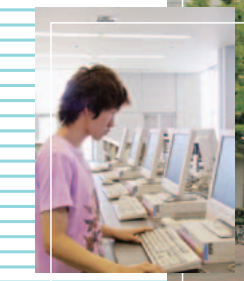
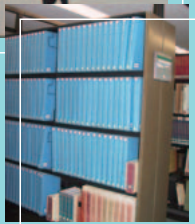
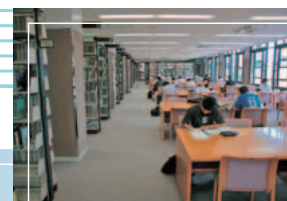
本号のみどころ

- 誕生!「広島大学学術情報リポジトリ」
- 平和学関連事業
- 海外研修報告書:ニュージーランド、米国、英国
- 図書館の新たな取り組み

「広島大学生のための情報探索ガイド」

「今中文庫目録」

図書館ホームページリニューアル



目 次

○目 次	2
○誕生！「広島大学学術情報リポジトリ」	尾崎 文代 3
○平和学関連事業	
● 広島大学図書館平和学コレクションについて	諸富 秀人 8
● FIRST日本語版構築事業について	上田 大輔11
○海外研修報告集	
● ニュージーランドの大学図書館を訪問して	西本 篤夫13
	岡田 英治
● 亜米利加西海岸大学見聞録	藤川 功和16
● 米国大学図書館訪問 ―機関リポジトリ調査を中心に―	山中 知美18
● リーズ訪問記	叶井貫一郎23
○図書館の新たな取り組み	
● 「広島大学生のための情報探索ガイド」の刊行	江森 早穂26
● 『今中文庫目録』完成に向けて	藤川 功和27
● 図書館ホームページのリニューアル	江森 早穂28
○図書館業務組織の見直しについて	諸富 秀人29
○平成17年度図書館事業報告	
● 講演会・シンポジウム等	34
● 主要行事等報告	36
○広島大学図書館統計	39
○トピックス	40

誕生！「広島大学学術情報リポジトリ」

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/>

尾崎 文代

(学術情報リポジトリ担当)

平成18年4月、学内の教育研究成果を世界に情報発信する、広島大学の機関リポジトリ「広島大学学術情報リポジトリ」がスタートしました。

研究成果のショーウィンドウとして大学のブランド力の向上につながる等、多くの効果が期待されているこの「広島大学学術情報リポジトリ」事業について、ご紹介します。

1. 機関リポジトリとは

容器・倉庫・宝庫などの意味をもつ「リポジトリ(Repository)」に、「機関 (Institution)」を冠した「機関リポジトリ (Institutional Repository)」という語は、「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」(注1) と定義されています。

つまり、機関リポジトリとは「大学や学術機関が設けるインターネット上の電子書庫」であり、学内の研究者、学生等の本学構成員による教育研究成果物を収集・蓄積・保存し、インターネットを通じて無償で学内外へ発信するためのしくみです。



この機関リポジトリ誕生の背景には、学術雑誌の価格高騰（シリアルズ・クライシス）による学術情報流通の障害と、それに対抗する活動として興った、学術文献を誰もが無料で入手できるように求める「オープンアクセス運動」が挙げられます。この運動には、学協会によるオープンアクセス誌の刊行と、学術機関が自学の研究成果の発信を担う機関リポジトリの構築の二つが含まれています。また、現在、出版社の多くが、学術論文のセルフアーカイブ（研究者による自己保管）を認める傾向にあることも、この運動に拍車をかけています。

さらに、平成18年3月の文部科学省科学技術・学術審議会「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）：第Ⅱ章 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」の中でも、「機関リポジトリの推進」として、「学内で生産された学術情報の組織化と発信力をより強化することが必要である」と述べられました。

機関リポジトリは、世界規模で浸透しているということが言えます。

このような動向を受けて「広島大学学術情報リポジトリ」は生まれました。

平成18年7月現在の世界の機関リポジトリ数は704（うち、日本18）に上ります。

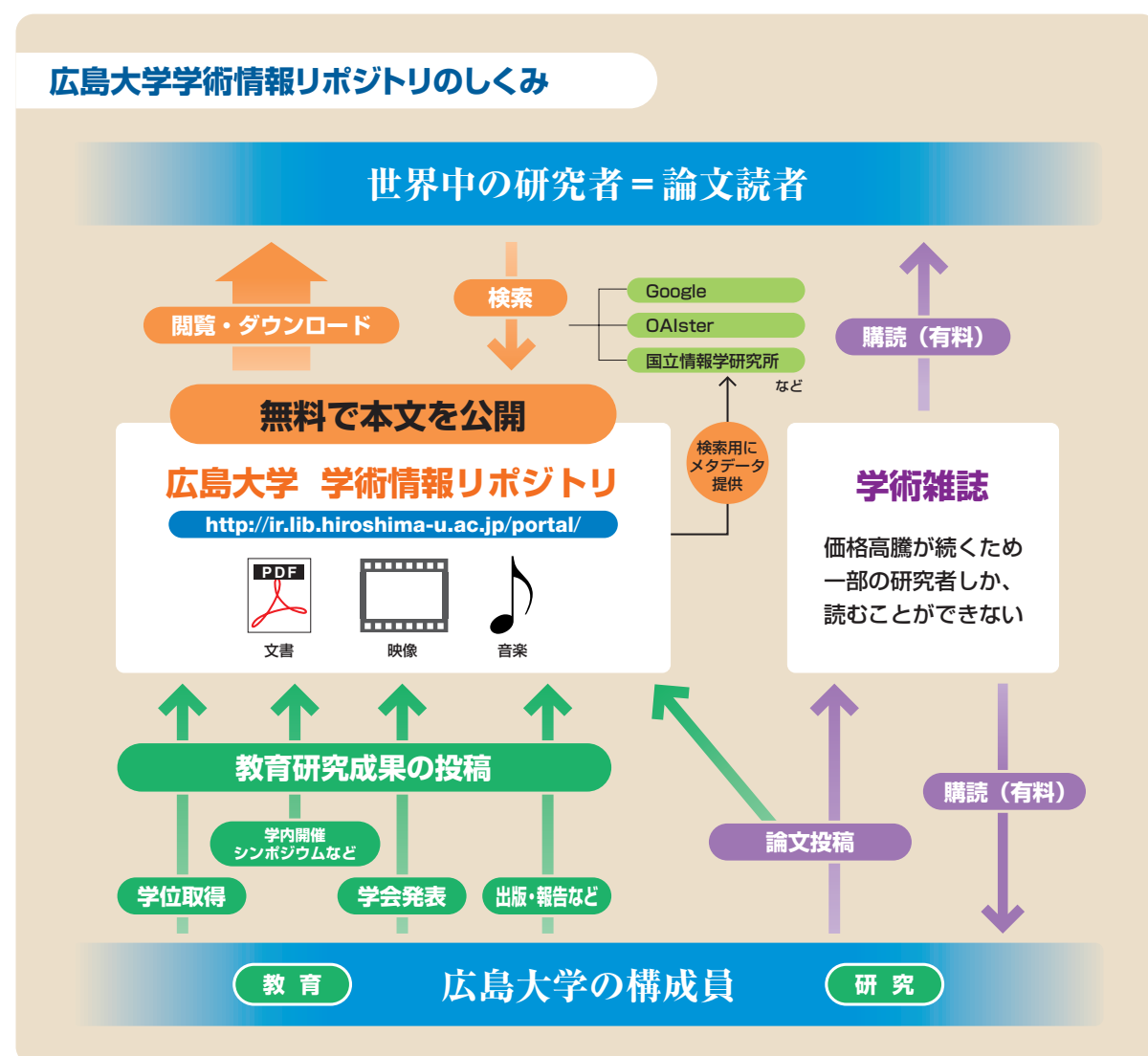
2. 学術情報リポジトリの公開まで

広島大学では、大学運営戦略会議のもとに平成16年度に発足した「広島大学における学術情報のアーカイブ化と発信に関するワーキンググループ」の中で、機関リポジトリの構築・運用について検討が行われ、平成17年度に、図書館部において実施することが了承されました。これを受けて図書館では「電子図書館構築・整備委員会」を設置し、学内説明会による合意形成、ハードウェア・ソフトウェアの調達、コンテンツ収集の作業を行い、平成18年4月に試験公開を行うとともに、専任のセクション「学術情報リポジトリ主担当」を設置しました。

以後はこの主担当（2名）を中心に事業を進めております。

平成18年7月現在、学内の皆様から論文等コンテンツのご提供を受け、学術情報リポジトリの登録件数は、467件の学術雑誌掲載論文を始めとする約1,550件に上っています。他に電子資料として、図書館所蔵のコレクション約5,600件が登録されています。

3. 学術情報リポジトリのしくみと効果



広島大学学術情報リポジトリは、広島大学の構成員（教員・学生）の教育研究成果（雑誌論文・講演会資料・報告書その他）を収集して電子的に蓄積・保存し、無料で本文を公開します。また、OAI-PMHというプロトコルを通して、Google・OAIster・国立情報学研究所などのエンジンから検索されます。

学術情報リポジトリで成果を公開することにより、さまざまなメリットが期待できます。まず、研究成果の効果的な発信による認知性・視認性（ビジビリティ）の向上が挙げられますが、この効果によって論文の被引用率がアップし、

大学のブランド力の向上につながります。物理学分野では、オープンアクセスの論文の被引用率が、そうでない論文の5.6倍となったという調査報告もあります。（注2）

また、学内外に対して、研究への認知と理解の向上を期待できるようになるため、産学連携・地域貢献が促進されるとともに、社会に対する大学の説明責任の履行にもつながります。

一方、学内的には、研究成果の永続的・効率的保存を可能とし、学内出版物の刊行と連動することで、管理コストの低減、効率化に期待ができます。

4. 登録の流れ

(1) コンテンツの収集

学術情報リポジトリに収録するコンテンツは、学術雑誌掲載論文・科学研究費補助金成果報告書・テクニカルペーパー・学会発表スライド・学位論文・教材・講演会資料など、学内の教育研究成果物であれば、文書・映像・音楽などの種類を問いません。

また、電子ファイル以外の印刷物も受付け、図書館で電子化作業を行っています。

(2) 著作権について

前述のように、海外の多くの出版社が、研究者個人のウェブサイトや所属機関のサイトにおいて論文のセルフアーカイブを認めており、学術雑誌の約9割が許容されています。但し、公開においての条件は、出版社版の利用ではなく査読済み著者最終稿であれば認める場合、許可願の提出、著作権の明示など、

出版元に拠ってさまざまです。また、国内の学協会や出版社の機関リポジトリに関する著作権ポリシーは、未だ整備されていない場合が多いため、現状では図書館で個別に調査しています。

研究者の方々の業績リストをいただき、あらかじめ図書館で調査して、登録可能な文献のみお送りいただく方法もとしています。

但し、学位論文などのように著者のみに著作権がある場合は、著者の許諾で登録が可能です。

(3) 登録作業

上記調査を終え、登録が可能となったコンテンツは、図書館で索引語（メタデータ）を付与して登録します。このメタデータによってGoogleなどのエンジンからの検索が可能になります。

学内の皆様の研究成果をご提供ください！

お問い合わせ先

広島大学図書館学術情報整備グループ
学術情報リポジトリ主担当

tel: 082-424-6228 fax: 082-424-6211

e-mail: tosho-seibi-repo@office.hiroshima-u.ac.jp

コンテンツ送付用 e-mail: library@hiroshima-u.ac.jp

5. 学術情報リポジトリのこれから

生まれたばかりの「広島大学学術情報リポジトリ」には、これから整備していくべき多くの課題が存在しますが、また、多くの可能性を持っています。

図書館では今後、コンテンツのさらなる拡充やインターフェ이스の整備を行うとともに、学内のご意見を活かし、さまざまな角度からの実験を行っていきたいと考えています。

「広島大学学術情報リポジトリ」は、広島大学という「機関」の「リポジトリ（＝宝庫）」です。

これから、学術情報の活きた「宝庫」として大きく発展させるために、引き続き、学内の皆様のご協力をお願いいたします。

注1：Lynch, Clifford A. "Institutional repositories: essential infrastructure for scholarship in the digital age." ARL Bimonthly Report. 226, 2003

注2：Stevan Harnad. "Comparing the impact of Open Access(OA) vs. Non-OA Articles in the Same Journals." D-Liv Magazine. 10(6), 2004

世界のリポジトリ

世界規模でリポジトリは増加しています



平和学関連事情

広島大学図書館平和学コレクションについて

諸富 秀人

(学術情報整備課長)

1. はじめに

平成17年は、広島・長崎への原爆投下から60年目の年として、各地で様々な催しがありました。広島大学図書館におきましても「被ばく60周年事業WG」を立ち上げ、①峠三吉自筆草稿データベースの構築、②平和学関連図書コーナーの設置、③被ばく60周年記念講演会、④平和学ポータル構築、⑤SIPRI（ストックホルム平和学研究所）FIRSTデータベースの日本語版構築、の5つの事業を展開しました。本事業は、③の講演会（広島大学図書館 広島大学平和科学研究センター編「被爆60周年記念講演会——原爆報道・戦後体制と平和諸策」2006年3月で公刊）URL：http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/74006416/heiwa_kagaku_consortium2006_hibaku60.pdfを除き、今年度の継続事業となっています。各事業の成果につきましては、順次公開していく予定です。今回は、②平和学関連図書コーナーの設置について報告します。

2. 平和と平和学

「平和」とは、「平和である」とはどういう状態を表すのでしょうか。戦争という直接的暴力のない状態を平和と捉える考え方を「消極的平和論」と言い、飢餓、貧困、社会的差別、不公平、環境破壊、差別等社会の有り様に根ざした構造的暴力のない状態を平和と捉える考え方を「積極的平和論」と言います。今日では、世界の地域間格差、民族間格差による不平等、不公平を平和を脅かす事象として捉え、戦争の諸原因と平和の諸条件についての学問的研究を行い、「直接的暴力」だけでなく「構造的暴力」のない社会を実現するための実践的研究を行い、戦争を起こさない、戦争を防ぐ具体的な解決方途を導き出す学問を「平和学」と呼ぶようになりました。

3. 広島大学の理念

広島大学は、原爆被災によって壊滅的な被害を被った広島に、明治期以後軍都として発展してきた歴史を反省し、国際平和を希求する新しい文化都市を建設したいという広島県民や大学関係者の熱い期待に支えられて、その核たるべき総合大学として1949年に創設されました。その開学式において、森戸辰男初代学長が、「自由で平和な一つの大学」を建学の精神とし、「平和の大学たらんことを期する本大学が、世界と日本の平和的再建に対して負う責任はこの上無く大きい」と、その使命を明示しました。爾来、今日まで広島大学の理念として、この平和を希求する精神が脈々と受け継がれています。

4. 広島大学図書館平和学コレクション

広島大学図書館では、このような広島大学の理念を具現化するため、被ばく60周年を記念し、広島大学平和科学研究センターが発足以来収集してきた図書を中心として本学に所蔵する平和学関連資料約1万点を一堂に集めた「平和学コレクションコーナー」を設置しました。古典的名著であるカントの「恒久平和のために」（初版本）をはじめ、国内外の平和に関する貴重な資料を収集し、保存・展示しています。また、今後も本学の特色あるコレクションの一つとして、引き続き平和学に関連する資料を収集・保存し、平和学ポータルの一環として世界への情報発信に努めたいと思います。

広島大学図書館平和学コレクションが、戦争が発生する因果を突き止め、戦争を回避、防止するための諸原理、諸課題を解決するための一助となることを願っています。

広島大学図書館では、平和学コレクションとして、以下のような収書方針で収集します。

広島大学図書館平和学コレクションの目的と収書方針

1. 人類の理想である戦争のない世界を構築するために必要な知識を収集・保存し、提供することを目的とします。
2. 人類史上初めて核兵器の被害にあった「ヒロシマ」に立地する広島大学として、主として原爆等核兵器、軍縮、国際政治に関する資料を収集します。

平和学コレクションにある貴重資料をご紹介します。平和学コレクションコーナーの展示ケースに配架しています。

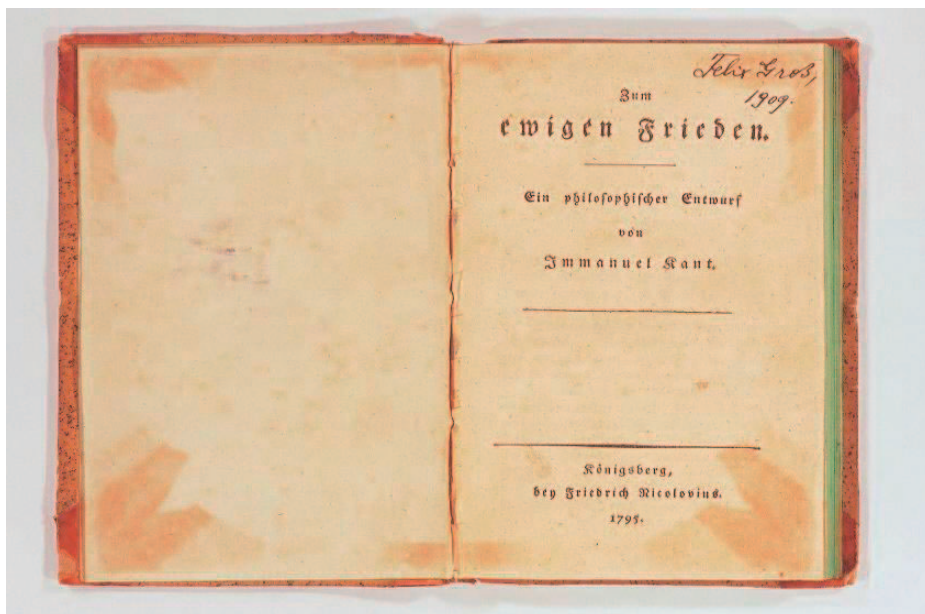
1. カント「永久平和のために」

初版本 1795年出版

解説： 世界の恒久的平和はいかにしてもたらされるべきか。カントは、常備軍の全廃・諸国家の民主化・国際連合の創設など具体的提起を行ない、さらに人類の最高善＝永遠平和の実現が決して空論にとどまらぬ根拠を明らかにして、人間ひとりひとりに

平和への努力を厳粛に義務づけている。本書は、日本国憲法の源流たる平和論の基本的古典である。

本書は、フランス革命後の混乱のさなかの1795年に出版された。同年4月に、フランスとプロシアの間でバーゼル平和条約が結ばれたが、この条約は戦争を永久に終わらせるような条約ではなく、「戦争の原因となるような要素を含んだ」偽りの平和条約であった。このため、「永久の平和のために」は何か必要なのかを本書で明らかにしようとした。



2. サン・ピエール「永久平和論」

初版本 1713年出版

解説： サン・ピエール（1658－1743）は、フランスのイエズス会僧であり政治哲学者でもある。恒久平和は自然法、実定国際法に基づく恒久的国家連合の樹立、国際軍の創設、常設の会議を開き、調停及び仲裁によって紛争や戦争を未然に防止し、国際平和を維持しようと主張した本書を著した。その後のルソーやカントの平和論に影響を与え、今日の国際連合の基礎理念ともいべき平和思想を著述した平和学の基本的古典である。

本書は、スペイン継承戦争（1701年－1713年）終結のためのユトレヒト講話会議への出席後、1713年～1717年にかけて出版され、「永久の平和のために」は何が必要なのかを本書で明らかにしようとした。

なお、広島大学平和学コレクションコーナーは、中央図書館2階南西部にあります。

貴重書、視聴覚資料、逐次刊行物を除いた一般図書は、館外貸し出しも行っています。

平和学関連のVTR、DVD等も備え付けてあり、同コーナーで視聴できます。また、同コーナー備え付けのパソコンで、原爆・被ばく関連資料データベース等広島大学図書館平和学関連のデータベースの検索や、関連ポータルサイトの閲覧もできます。



FIRST日本語版構築事業について

上田 大輔

(学術情報整備グループ 学術情報リポジトリ担当)

はじめに

広島大学図書館では、2004年に平和学関連図書館の調査としてストックホルム国際平和研究所（SIPRI）を訪れ、SIPRIと国際関係及び安全保障ネットワーク（ISN）が共同で作成している「国際関係及び安全保障の動向に関するデータベース（FIRST）」の日本語版構築に関する提携協議を行いました。そして、2005年10月に広島大学とSIPRI及びISNとの間でFIRSTの日本語版構築事業についての合意書を交わし、広島大学がSIPRIと共同でFIRSTの日本語版の構築を行っていくこととなりました。今回はそのFIRST日本語版構築事業の概要について報告致します。

FIRSTとは？

FIRSTとは正式名称を「Facts on International Relations and Security Trends」と言い、日本語では「国際関係及び安全保障の動向に関するデータベース」と訳されています。FIRSTは国際関係や国際安全に関する高品質で信頼性の高い情報を研究者、学生、政治家、メディア関係者または一般の人々に提供することを目的として作成されたデータベースです。

FIRSTには、2006年6月現在で「軍隊・通常兵器・軍事活動」、「武器の生産・貿易・禁輸・輸出管理」、「紛争及び平和維持活動」、「各国の指標・統計」、「政治・メンバーシップ・条約」、「軍事費」、「核兵器・弾道ミサイル」、「ニュース、イベント、参照データ」の8つの分野からなる44の個別のデータベースがあり、これらのデータベースの中にはSIPRIが作成するデータベースだけでなく、FIRSTプロジェクトに参加する25の機関が作成しているデータベースも含まれています。

FIRSTの利用者は、それぞれのデータベースを個別に検索することなく、単一の画面でこれらのデータベースを統合的に検索することが可

能となっており、FIRSTは国際関係や国際安全に関する情報を集約したインターネットポータルとして機能しています。

FIRST日本語版について

2006年の夏に公開予定であるFIRST version 3は多言語に対応したアプリケーションとなるため、現在のFIRSTデータベースに入力されている英語のデータ及びテーブル名等のメタデータを日本語に翻訳し、新たにデータベースに追加することによって、日本語での画面表示や日本語での検索を行うことが可能になります。しかし、残念ながら著作権や技術的な問題のため、翻訳されるデータベースはSIPRIが作成しているデータベースに限られます。

このFIRST日本語版の構築の作業を進めるため、2006年3月にSIPRIに2週間滞在して、FIRSTの担当者と今後のFIRST日本語版の構築作業の進め方に関する協議、日本語のテストデータの検証、翻訳作業に使用するWebアプリケーションの開発についての検討等を行ってきました。

今回、FIRSTの翻訳版を初めて作成すること、また英語とは言語の系統が異なる日本語への翻訳であるため、テストデータの入力に使用する日本語環境の構築や、画面表示での不具合、英語から日本語に翻訳した時に生じる語順の違い等様々な問題がありましたが、現在では上記の問題をひとつひとつ解決しながら、実際の翻訳作業に向けての準備を進めています。翻訳作業に使用するWebアプリケーションは、既にベータ版の開発が終わり、細かな点を改修しているところです。今後このWebアプリケーションの改修が終わり次第、データ及びメタデータの翻訳作業を開始する予定です。



おわりに

このFIRST日本語版の構築事業によって、今までFIRSTを使っていた日本人利用者の利便性を高めるとともに、今までFIRSTを使っていなかった、あるいは知らなかった人々に、この非常に有益な情報が収録されているFIRSTを知ってもらい、広く利用してもらうことができればと考えています。そのためにも、引き続いてFIRST日本語版の完成に向けて努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、SIPRI滞在中にお世話になった人々、特にFIRST担当者である、Gerd Hagemeyer-Gaverus、Dan Wu、Bram Steinの各氏に感謝申し上げます。

参考URL

SIPRI : <http://www.sipri.org/>

FIRST : <http://first.sipri.org/index.php>

海外研修報告集

ニュージーランドの大学図書館を訪問して

西本 篤夫 (利用者サービスグループ 西図書館フロア主担当)
 岡田 英治 (広島エリアグループ フロアサービス主担当)

財団法人広島大学後援会の平成17年度国際交流助成事業・海外研修助成を受け、2005年9月4日から9日まで、ニュージーランドの大学図書館（カンタベリー大学、オークランド大学）を訪問しました。

図書館の海外研修・視察先としては、図書館学の先進地域である欧米が一般的ですが、南半球のニュージーランドを訪問先に選んだ理由は2つありました。

1つは、大学の国際化です。日本での大学入学対象である18歳人口は減少の一途をたどり、今後は外国人留学生を広く受け入れることも視野に入れる必要があります。図書館としても、外国人留学生の増加に対応した環境整備ならびにケアが必要であり、外国人留学生の割合が比較的高いニュージーランドは十分参考となるでしょう。

2つめは、図書館員の育成についてです。ニュージーランドは1990年代に国立大学法人化を実施し、2004年に国立大学法人化がスタートした日本の大学職員として、非常に興味深いところです。

今回はニュージーランドの大規模総合大学として名高いカンタベリー大学とオークランド大学を訪問先に選びました。

1. 留学生のサポート

オークランド大学で伺った話では、学生総数約34,000人のうち、いわゆる短期滞在型の留学生は約4,700人だが、ニュージーランド国籍を持つ中国人、韓国人が約10,000人在籍するらしく、大学内でも東洋系の学生をかなり見かけました。

入学前に語学センター等で研修を受けて入学する学生が多数なので、日常会話にさほど困ることはないということでした。しかし、生活習慣の違いに戸惑うことがないよう、カ

ンタベリー大学ではサポート・オフィスにより、出身国別にレクチャーを行うなどの配慮がなされています。

図書館では、特定のスタンドアローン端末やアジア言語資料の書架に各言語による注意書きが貼られている程度で、留学生を特別扱いしている様子は見られませんでした。



書架に貼られた“飲食禁止”の注意書き
 (上から中国語、日本語、韓国語。
 オークランド大学にて)



左からJackie Waylanさん、Tim Stedmanさん、
 通訳の藤原さん（カンタベリー大学）

2. サブジェクト・ライブラリアンの役割

サブジェクト・ライブラリアンは関連教員と連携しながら、選書、学生の指導、図書館WWWページの構築などを行います。特に、サブジェクト・ライブラリアンが行う情報リテラシーは学生の必修科目であるため、かなり力を注いでいます。

二つの大学とも、オンライン・チュートリアル図書館のサイトに各コースが示されており、学生が希望のコースと日時を予約して受講するシステムになっています。

また、サブジェクト・ライブラリアンの自己研修のための図書館員向けコースが存在することに驚きました。定期的に部署異動を伴うなど司書の立場が不安定な日本とは違い、定期的な職場異動がないのも特長と言えるでしょう。



閲覧室の奥がサブジェクト・ライブラリアンの部屋。相談を行っている（予約制）。（オークランド大学）



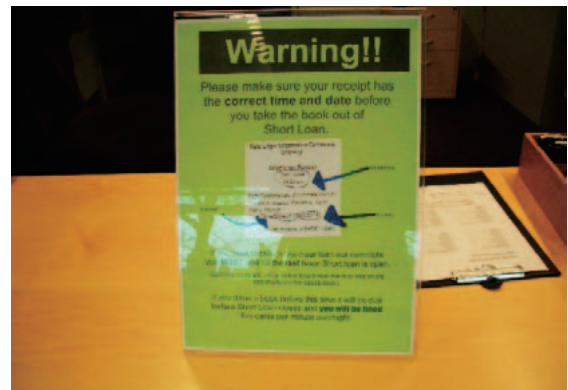
Kaaren Hiyamaさんを囲んで。
（オークランド大学。右：西本、左：岡田）



レファレンス・コーナー。黄色の旗に注目。
（オークランド大学）

3. ワンストップ・サービス

オークランド大学にはインフォメーション・コモنزと呼ばれる施設があります。ここでは約1,000席の自習スペースと自由に使えるパソコンが約500台ありますが、別の階には試験などで使用する問題集や推薦図書が置かれ、利用頻度が多いため通常の図書の貸出期間よりも短い、ショート・ローンと呼ばれる貸出を行っています。



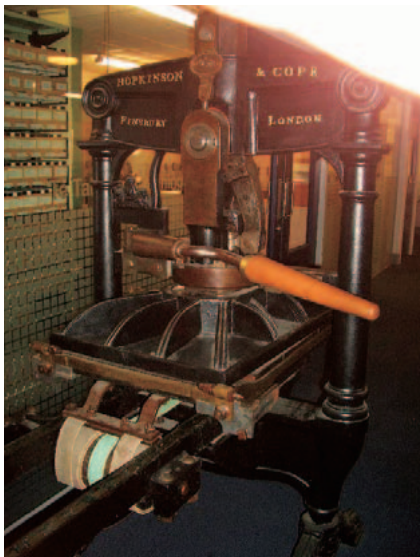
ショート・ローンのレシートの説明
指定時間までに返却するように、とある。

一方、カンタベリー大学では商品購入などで決済に使うためのカード端末機が館内に設置され、入金しようとする学生が長い列を作っていました。

広島大学では福利施設を利用するには図書館の外へ出なければならない例がほとんどですが、些細なことでも図書館内で用が済ませられる事例を検討し実現することも図書館サービスの向上につながるのではないかと考えさせられました。



華やかな図書館内。書架の上には観葉植物が数多く置かれている。
(カンタベリー大学)



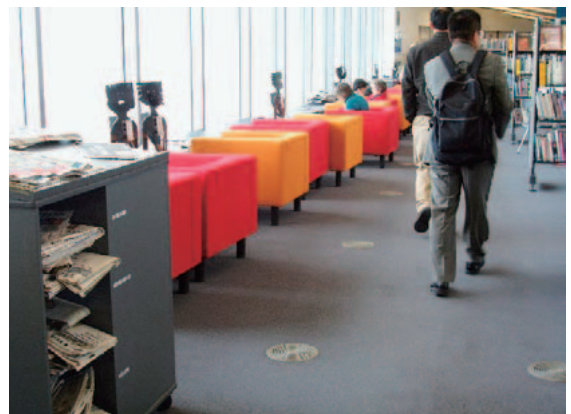
通路に置かれたマイクロフィルム・スコープ
(映写機)。Londonの文字が刻まれている。
(オークランド大学)

4. 終わりに

肥沃なカンタベリー平野に立地するカンタベリー大学では、遙か遠方に広がるサザンアルプスの山々や放牧地が眺められ、閲覧室や事務室にも観葉植物の緑が置かれ、恵まれた自然を図書館内にうまく取り込んでいました。訪問の際、朝10時のティータイムに招かれたが、大勢の職員がパンケーキを片手に談笑にふける様子は、今の日本の職場事情からは想像もつかないものでした。一方、ニュージーランド最大都市に位置するオークランド大学は、図書館内のサインが英語とマオリ語併記であること、18世紀製造の英国製マイクロフィルム機材が飾られており、ニュージーランドの歴史と文化を身近に感じられました。両大学とも資料収蔵スペースの限界が近づいており、別の建物への一部移管など頭を悩ましているということでした。また個人的には、私達の語学力不足を大いに痛感した訪問でもありました。

最後に、今回の訪問に際し御尽力くださった広島大学後援会、広島大学図書館、そして現地でお世話になった方々に、この場を借りて感謝の意を表します。

(所属名は研修当時)



クライストチャーチ近郊の海岸に建てられたThe New Brighton Library（市立図書館）の閲覧室。窓の向こうに、観光名所のNew Brighton Pier（栈橋）と広大な南太平洋を見渡すことができる。

亜米利加西海岸大学見聞録

藤川 功和

(研究開発室 助手)

2006年1月29日から2月5日の一週間、位藤邦生図書館長に同行させていただき、アメリカ西海岸にある三大学の機関リポジトリの進行状況に関する視察を行った。以下、その概要を記す。

1月29日朝、広島空港から成田に移動し、成田から直行便で一路サンフランシスコへ。現地時間29日朝9時にサンフランシスコ国際空港に到着。翌30日にカリフォルニア大学バークレー校を訪問。まず東アジア言語文化学部長マック・ホートン氏にお会いした。ホートン氏は、位藤館長と同門で、日本に留学されていた折、東海大学で連歌研究の大家故金子金治郎広島大学名誉教授に師事し、中世文学を学ばれた。今回のバークレー校訪問に際しても色々のご配慮を賜った。31日には、ピーター・ゾウ東アジア図書館長、ブルース・ウィリアムス専門員両氏から聞き取り調査を行い、①機関リポジトリの進行状況については、学問分野で温度差があること、②分野によっては、リポジトリを構築していく上で特定の学会と連携を図り、コンテンツの充実を目指す場合もある、等を伺った。

翌2月1日は、スタンフォード大学に赴き、午後から東アジア図書館書誌・目録系のナオミ・コタケ氏から聞き取り調査を行った。コタケ氏からは、スタンフォード大学が近年グーグルと提携を結び、著作権にかからないものから順次電子化を進めていく予定であることや、東アジア図書館所蔵日本古典籍コレクションの概要等についてもご説明をいただいた。また、午後4時からは、東アジア言語文学学部長のステイブン・カーター氏に急遽お会いした。実は、カーター氏もホートン氏同様、金子教授の門下生であったが、前任校をお退きになられた後の消息については、位藤館長もご存じなかった。コタケ氏との雑談中に、カーター氏が現在スタンフォード大学にお勤めであることが判明し、図らずもお会いすることが出来たのである。位藤館長とカーター氏は旧交を温められ、また、機関リポジトリに関しても色々とお話を伺った。



位藤図書館長と稿者。
カリフォルニア大学バークレー校にて



スタンフォード大学内の教会

翌2日正午サンフランシスコを後にし、空路ロスアンゼルス国際空港に到着。そして空港からタクシーで約20分程かけて、パサデナへ。パサデナは古くから閑静な高級住宅街として知られる。治安もよく、近年ではオールドパサデナといったショッピングゾーンが再開発によって新たに誕生し、週末になると観光客で賑わう。宿に荷物を置いた我々は、翌日の下見も兼ねて、徒歩で30分程の距離にあるカリフォルニア工科大学に向かった。図書館員の方にリポジトリに関する調査で訪問した旨を述べたところ、運良く同校の図書館長キンバレー・ダグラス氏にお会いすることが出来た。キンバレー氏のご好意により、図書館長室にて聞き取り調査をさせていただき、①カリフォルニア工科大学におけるリポジトリ構築の歴史、②2003年以降の学内学位論文のPDFファイル化の概要、等の貴重な情報をいただいた。



位藤邦生図書館長と
キンバレー・ダグラス カリフォルニア工科大学図書館長

かくして、当初の予定より一日早く、西海岸三大学からの機関リポジトリに関する聞き取り調査を完了したのである。各大学からほぼ共通して出された話題として、①機関リポジトリの進行状況については、学問分野で温度差がある、②米国では機関リポジトリへの登録は、研究者への「要請」ではあるが「義務」ではない、③機関リポジトリの評価は、その文献数は問題ではなく、各分野の研究者の要請にどのように応えるかによる、等があげられる。「亜米利加＝

機関リポジトリの先進国」という先入観を持っていた稿者にとって、上記①②はとりわけ興味深く感じられた。

今回の調査にあたって、バークレー校以外は、事前のアポイントメントを殆ど取らず、いわば突撃取材を敢行した。本来アポイントメント社会であるアメリカにおいて、このような成果をあげることが出来たのは、位藤館長の行動力と、故金子教授が取り結んで下さった「ご縁」によるものと私には思われるのである。

なお、本来調査日にあてはるはずだった2月3日は、パサデナの南にある、かつての鉄道事業王ヘンリー・ハンティントンの旧邸宅を尋ね、その広大な敷地のほんの一部に建つ、ハンティントンライブラリーにて、本学図書館はレプリカを所蔵する「グーテンベルグ聖書」のオリジナル版を目の当たりにし、齢35にして初めて異国の地に足を踏み入れた私は、しばし感慨に耽ったのである。



ハンティントンライブラリー外観

米国大学図書館訪問 — 機関リポジトリ調査を中心に —

山中 知美

(学術情報マネジメントグループ 雑誌コレクション担当)

はじめに

平成17年度CSI受託事業として、米国大学図書館における機関リポジトリを中心とした図書館活動の現状調査のため、下記大学図書館を訪問しました。

訪問日程 2006年

1月30日(月)

オハイオ州立大学図書館(オハイオ州)

2月1日(水)

コーネル大学図書館(ニューヨーク州)

2月3日(金)

コロンビア大学図書館(ニューヨーク州)

訪問者

山中 知美(学術情報整備グループ 雑誌コレクション担当)

首東 誠(学術情報整備グループ 図書コレクション担当)

調査項目は、機関リポジトリを筆頭に、特有の電子リソース、情報リテラシー教育、職員研修、施設見学とし、各図書館の現状について担当者にお話を伺いました。

オハイオ州立大学図書館

The Ohio State University Libraries

<http://www.osu.edu/libraries/>

Knowledge Bank (<https://kb.osu.edu>) という名称の機関リポジトリを持っています。使用ソフトウェアはDspaceです。リポジトリの運営は5名、内1名が著作権担当です。この大学では投稿者による自己登録がなされ、主に図書館員がメタデータを付与し公開しています。(学部でメタデータを付与することもあるそうです。)投稿者による自己登録では、コンテンツ収集が困難ではないかと思われましたが、そうでもないようです。投稿者(研究者)自身がリポジトリの有用性を認識しているからではないか、とのお話でした。

インターネットツール(Webブラウザ、eメールなど)及び検索方法についてはオンラインによる単位授業が用意されていますが、いわゆる図書館の情報リテラシー教育は授業に組み込まれていません。教官の依頼があれば図書館員が学部に出向いたり、図書館内で実施したりします。授業カリキュラム化を大学に提案しているそうです。図書館ホームページには、調査したい分野とツール(参考図書、雑誌記事、人物など)を選択すると資料の一覧が表示されるサイトや、研究のためのインターネット活用法が学べるサイトもあります。

職員研修は通常、図書館と研修会社が契約を結び、希望者の申し込み(上司の許可が必要)により研修会社のトレーニングを受講する形で行われます。受講形態は対面式とeラーニングがあります。予めWebで研修の内容や日程を知ることができます。

特化した電子リソースには、OhioLINK(<http://www.ohiolink.edu>)というオハイオ州85の州立大学図書館及び州立図書館から成る図書



写真1 Thompson (Main) Libraryの前で 左から首東、Maureenさん、山中

館ネットワークによって提供されるサービスがあります。もちろんオハイオ州立大学も参加機関の一つです。サービス内容は、参加機関の蔵書目録横断検索と資料の相互貸借（日本のNACSIS-CAT/ILLのようなもの）、データベース、電子ジャーナル、絵・写真・音声のデジタル資料公開です。OhioLINKは電子リソース供給のためのコンソーシアムでもあります。参加大学が個別に契約するのではなくOhioLINKという集合体として契約するため、総合的に大幅な経費削減となっています。

せっかくなので、案内をして下さったMaureenさんが収書を担当するCartoon Research Libraryも見学させていただきました。日本のマンガが、絶版になった昭和の貴重なものから最近のものまで所狭しと並んでいました。マンガが貴重書扱いのため閉架式（図書館員に取り出してもらう）であることに驚きました。

コーネル大学図書館

Cornell University Library

<http://www.library.cornell.edu/>

コーネル大学には、3種類のリポジトリがあります。

1. techreports

<http://techreports.library.cornell.edu>

独自のソフトウェアDpubSを使用。主にコンピュータ・サイエンスのテクニカル・レポート。3種類の中で最も早く設立。

2. Open Access Repository (OAR)

<http://dspace.library.cornell.edu>

Dspace使用。大学院や図書館、Internet-First University Presの出版物、東アジア関係の論文、生物環境技術の学生プロジェクト、大学構内の植物の画像など。

3. arXiv (disciplinary repository)

<http://www.arxiv.org/>

arxiv system使用。物理学、数学、量子生物学、コンピュータ・サイエンスのプレプリント。プレプリントの半分はアメリカ国外からの投稿。3種類の中で最も有名。

3種類とも投稿者による自己登録で、図書館の著作権問題担当者は2名です。リポジトリへ登録することへの抵抗感は、科学系にはなく人文系に強いようです。Webに掲載すれば、出版する必要がなくなってしまうと危惧しているのではないかと担当者は語っていました。教授会でリポジトリへの登録を推奨しているそうです。

特有の電子リソースにはInternet-First

University Pressがあります。これは2004年1月に設立されたオープン・アクセスの大学出版局であり、学術書や学位論文、ビデオなどのマルチメディア資料をインターネット上で出版し、Open Access Repositoryにて無料で提供しています。紙媒体の出版には多大な費用が掛かる割に発行部数が少ないため、大学の（特に若い）教員に必要とされるリソースのようです。

図書館が行う情報リテラシー教育には、単位



写真2 Olin Libraryの前で 山中

認定される授業（必修と選択）、図書館ツアーから特定データベース利用までの各種ワークショップ、Webによるガイドなどがあります。カリフォルニア大学バークレー校とリテラシー教育のプログラムが似ていることから、協力して再構築しようという動きがあるそうです。

職員研修については大学がポリシーを定めており、受講条件やプログラムとともに学内限定ホームページに掲載されています。

コロンビア大学図書館

Columbia University Libraries

<http://www.columbia.edu/cu/lweb/>

いわゆる機関リポジトリは設立していないのですが、DigitalCommons@Columbiaという修士及び博士論文のデータベースを持っています(<http://digitalcommons.libraries.columbia.edu/>)。1997年以降の博士論文はフルテキストで見ることができます(学内及びProQuest Digital Dissertationsの契約者限定)。ProQuestにて著作権問題も処理済みであり、データベースの設定を外注しています。

特有の電子リソースとして、CIAO: Columbia International Affairs Online (<http://www.ciaonet.org/>)があります。これは国際問題・国際関係に関するデータベースで、図書館、コンピュータ・センター、大学出版局が連携する電子出版プロジェクト(EPIC)により開設されました。コンテンツであるワーキング・ペーパーは、1名の編集者がターゲットを絞って収集しています。年2回の国際会議で出席者にコンタクトをとったり、eメールで機関長に依頼したりしましたが、CIAOが有名になった今では投稿希望者からもコンタクトがあるそうです。10万ドルもの利益を上げていると聞いて驚きました。国際会議ではユーザーの特定グループにインタビューし、満足度も調査しているそうです。

コロンビア大学図書館は1つの本館と25の分館から構成されるため、各館で蔵書分野に応じたインストラクションのプログラムを組んでいます。対面式のプログラム形態としては、単位認定授業(教官引率の授業が多いが、図書館主催もある)とオリエンテーションを含む講習会(図書館主催)があります。興味深かったのは、インストラクションの申し込みを管理するソフトでした。Webサイトにコース日程や内容、実施する図書館員名が表示され、学生はそこで登録できます。募集人数を超えた場合は予約リストに追加されます。コース開催前には登録した学生と図書館員宛にメール通知が来ます。コース終了後にも受講確認メールが送信されます。

お話を伺ったRobertさんの「データベースの使い方だけでなく、自分は何が欲しいのか、どうすれば必要な情報を引き出せるか利用者に教えたい。その情報の発信源は信頼できるものであるか判断し、情報を選択・評価して使いこなせるユーザーを育てたい。」というお言葉に感銘を受けました。

職員研修については残念ながら時間の都合により伺うことができませんでしたが、非常に密度の濃い一日となりました。

以上の訪問を通して、機関リポジトリにおいてはターゲットを絞ったコンテンツ収集を行うこと、レアなコンテンツや特化した分野を持つことが強みになることを学びました。また、他の電子媒体を通した新しい取り組みを目の当たりにし、非常に刺激的でした。今年度より公開された広島大学の機関リポジトリの発展及び電子図書館事業に貢献すべく、決意を新たにしました。



オハイオ広大寄贈図書



写真3 Low Memorial Libraryの前で首東

終わりに

今回の出張に際しては、多くの方にお力添えいただきました。特に下記の方々には貴重なお時間を割いていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

オハイオ州立大学 Maureen Donovanさん、
栗原ゆかさん、Tom Cetwinskiさん、Fred
Roeckerさん、Philip Brownさん、Betty Sawyers
さん

OhioLink Anita Cookさん

コーネル大学 Frederic Kotasさん、Marcy
Rosenkrantzさん、J.Robert Cookeさん、Terry
Ehlingさん、Tom Hickersonさん、Oya Riegerさ
ん、Linda Bryanさん、Kornelia Tanchevaさん、
Tony Cosgraveさん、Susette Newberryさん

コロンビア大学 野口幸生さん、Kate
Wittenbergさん、David Millmanさん、Stephen
P.Davisさん、Robert Scottさん

さらに、このような機会をいただいたことにつ
いて、国立情報学研究所および広島大学図書
館関係者の皆様方に感謝します。

(所属名は研修当時)



コーネル図書館内カフェ

リーズ訪問記

叶井 貫一郎

(学術情報企画グループ専門員)

平成18年3月27日(月)～29日(水)の3日間、二宮皓・副学長(国際担当)及び吉田総仁・工学研究科教授の随員として、英国リーズ市にあるふたつの大学を訪問する機会を得ました。今回の渡英の目的は、広島大学工学研究科とリーズ大学工学部との部局間交流協定に向けての準備折衝と、大学間交流協定校であるリーズ・メトロポリタン大学への表敬訪問でした。図書館職員もいるのでその見聞の機会が得られれば幸いである旨の希望は伝えていただきましたが、年度末の忙しい日程でのこともあり、残念ながら図書館の視察等はほとんどできませんでした。従って以下は英国の大学事情の一端についての見聞録ということでご容赦ください。

3月26日(日)朝、吉田教授と私、そしてもう一人の随員である山田節雄・工学研究科教育研究活動支援グループ総括主査の3名は、関西国際空港を発ち12時間弱のフライトの後、夕刻のアムステルダム・スキポール国際空港に到着しました。ここで、リーズ行き出発までの5時間を過ごすことになります。

二宮副学長は所用等のため別旅程となりリーズで合流する手筈となっていました。こちらは成田からパリ経由とのことで、いずれにせよ、英国の地方都市に向かうのにはロンドン経由よりこちらの方が便利というあたりも「統一ヨーロッパ」ならではかも知れません。

ヨーロッパ有数のハブ空港であるスキポールは施設も広大で、レストランやショッピングセンターはもとより、美術館、果てはカジノまで完備(?)していて、我々のようなトランジット(通過客)も飽きさせないようになっています。美術館では「レンブラントの弟子たち展」が開催されていましたが、驚いたのは日本語の巨大な看板があったことで、日本

人客が多いというだけでなくレンブラントが日本で人気のある画家であることまでリサーチした上のことかとも思いました。

リーズ行きの機内はまさに満員の国内線といった雰囲気、乗客はビジネスマン風が大半ですが学生風の若者もかなり混じっています。1時間余りのフライトの後、小雨降るリーズ・ブラッドフォード空港に到着したのは、現地時間の夜9時過ぎのことでした。

リーズ(Leeds)市は、イングランド北部、ヨークシャー地方の主要都市のひとつで、サッカー好きの人であればクラブチーム「リーズ・ユナイテッド」の本拠地としておなじみかも知れません。古くは織物工業で栄え、今日でも各種工業や金融機関が集まる産業・金融都市であり、同時に2つの大学を擁する学園都市でもあります。



投宿したホテルから見たリーズの街。車も左側通行なので時差だけの頭では一瞬日本と錯覚することもある。

空港からホテルに向かう際利用したタクシーの運転手はカシミール出身といい、翌日以降利用したタクシーの運転手は皆パキスタン系でした。街中でも、アジア系、アラブ系、アフリカ系等と思しき顔立ちや服装の人々が多数行き交っており、我々の想像以上に多民族化が進んでいることを実感しました。ちな

みに、リーズ市のwebページ（*1）には、中国語に加えアラビア語や南アジア諸語のガイドも設けられています。

3月27日、最初の訪問先であるリーズ・メトロポリタン大学（Leeds Metropolitan University）（*2）を訪問しました。1992年創立（ポリテクニクから昇格）のいわば新興大学ですが目覚ましい発展を遂げ、現在は6学部擁する総合大学となっています。



リーズ・メトロポリタン大学のキャンパス。大学の創立は新しいが、産業革命期以来の由緒ある建物が多い。

前述の通り、1993年10月に本学と大学間交流協定を締結して以来活発な交流が続いています。（広島大学からの留学生もおり会見を設定しようとしてくれましたが、スケジュールが合わなかったとのことでこれは実現しませんでした。）昨年7月には、牟田学長と前川副学長が国際学部の卒業式に列席し、その際に広島大学に対する名誉学術協定賞が授与されています（*3）。



リーズ・メトロポリタン大学図書館閲覧室の一部。

Simon Lee学長（Vice-Chancellor）やElspeth Jones国際学部長（Dean）等との懇談の後、学内施設の案内があり、ごく短時間ですが図書館を見ることができました。

図書館はちょうど平面が「日」の字を横にした形の古い建物の中庭部分に屋根を架けて閲覧室や階段教室の空間を創り出すという大胆な構造で、室内の壁の一部はそのまま元の外壁のままとなっていて独特の雰囲気があります。

自校だけでなくリーズ大学の図書館も利用できるよう専用バスを運行しているとのことですが、図書館に限らず、PC端末や相談窓口を備えた学生サロンのようなスポット等、学生への情報（学習研究のみならず生活面に至るまでの）提供のサービスは徹底しているという印象でした。

また、英国の大学はどれも多数の留学生を受け入れています。リーズ・メトロポリタン大学でも海外からの大学院生受け入れに力を入れており、彼らへのガイダンス・リテラシーは重要であるとの話を伺いました。

翌3月28日は、リーズ大学（University of Leeds）（*4）の工学部（Faculty of Engineering）を訪問しました。今日のリーズ大学としての創立は1904年ですが前身校まで含めると19世紀に遡る伝統を有しています。

最初に訪ねたのは機械工学科（School of Mechanical Engineering）棟でしたが、工場や実験施設内も含め隅々まで整理整頓され塵ひとつなかったのには、同行4人揃って感心したものでした。



リーズ大学ブロサートン図書館入口。移動中にやっと撮影。

Roger D. Pollard工学部長（Dean）への表敬後、交流協定についての折衝、機械工学科施設の見学、Language Centre見学と懇談、International Office訪問と懇談、工学部に残る吉田教授と山田総括主査と別れ二宮副学長に随行してLifelong Learning Instituteを訪問…といった具合で、前日以上の過密スケジュールとなりました。

リーズ大学には、エドワード・ボイル図書館（Edward Boyle Library; 学生図書館・自然科学・工学）、ブロサートン図書館（Brotherton Library; アート・社会科学）、ヘルス・サイエンス図書館（Health Sciences Library; 医学・歯学・ヘルスケア）、ブレトン・ホール・キャンパス図書館（Bretton Hall Campus Library; 音楽・視覚芸術・舞台芸術）、セントジェイムス大学病院図書館（St James's University Hospital Library）の5つの図書館と約30の学部図書館（Departmental Library）があり、特にブロサートン図書館には素晴らしいものがあると以前の上司からも聞かされていたので、訪問の時間がなかったのは誠に残念なことでした。



リーズ大学Parkinson Building。この中にブロサートン図書館がある。

またリーズ大学は、近隣のシェフィールド大学及びヨーク大学と、White Rose Consortium ePrints Repositoryという共同リポジトリシステム（*5）を運営しており、機関リポジトリを立ち上げたばかりの本学にとっても興味深いものがありますが、こちらの話も伺うことはできませんでした。

以上のような次第で「図書館へは行かざるの記」になってしまいましたが、いずれの大学も海外からの留学生受入れに熱心であり、また国際交流にも意欲的で広島大学との交流もさらに大きく広げようという姿勢が印象的でした。

なお、記念品として持参した本学グッズに加えて図書館で制作した「奈良絵本・室町時代物語」絵葉書をお渡ししたところいづれでも大変喜ばれたことを付け加えておきます。

最後になりましたが、今回見聞を広げる機会を与えていただいた二宮副学長、吉田教授、そして平元健史・前図書館部長（現・大阪大学附属図書館事務部長）に御礼申し上げます。また、年度末にも関わらず快く送り出してくださった鈴木秀樹・前学術情報サービス課長（現・九州大学附属図書館コンテンツ整備課長）と片山俊治・学術情報企画課長、準備連絡等で全面サポートいただいた門脇英雄課長はじめ国際企画・連携グループの皆様、初めての洋行で右も左も判らない筆者にアドバイスいただいた山田総括主査、そして親切に対応いただいたリーズ大学並びにリーズ・メトロポリタン大学の皆様に感謝申し上げます。

*1) <http://www.leeds.gov.uk/>

*2) <http://www.lmu.ac.uk/>

*3) http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/koho/news_info/p_a32532.html

*4) <http://www.leeds.ac.uk/> 日本語サイトは<http://www.leeds.jp/>

*5) <http://eprints.whiterose.ac.uk/>

図書館の新たな取り組み

「広島大学生のための情報探索ガイド」の刊行

江森 早穂

(学術情報普及グループ 情報ナビゲーション主担当)

図書館でのデータベースや検索の講習会を実施する時、またカウンターで利用者の質問に答える時、統一した分かり易いテキストがあったらと、情報リテラシーテキスト刊行の必要性を、図書館職員誰もが痛感していました。しかし、職員が分担執筆するにしても、日常の業務以外にその負担を担う余裕もなかなか持ちにくく、また予算的措置も難しく、刊行が具体化しませんでした。

このたび、平成17年度情報リテラシー委員会の一大事業として、一年がかりで取り組み、平成18年3月31日完成致しました。作成にあたっては、

①図書館の利用方法を具体的に説明し、カウンターでの説明の代わりとなる内容を盛り込み記述する。

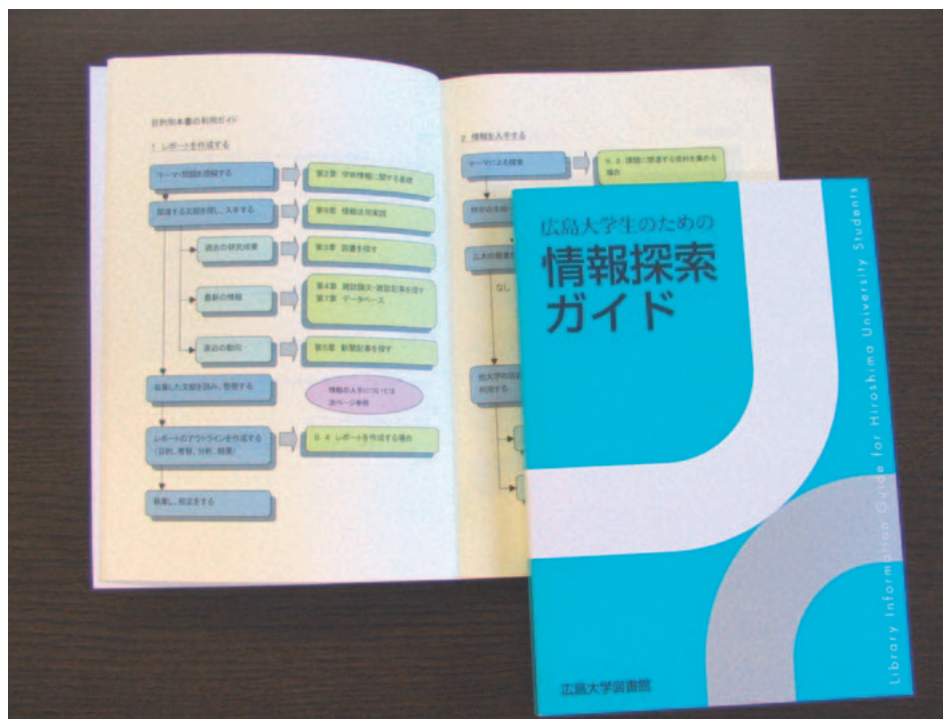
②利用者が情報探索する目的別の構成とする。

③OPACなど基本的ツールを説明する講習会用テキストとして活用できるようにする。

④図や事例を提示し、分かり易い内容とする。などを基本的な姿勢としました。職員が分担執筆し、全体を調整後、演習問題や利用のためのチャートを加えるなどの仕上げをしました。

平成18年度教養ゼミ「図書館利用案内」実施の際に、参加者全員に配付し、利用しました。実施後の学生、教員向けのアンケートでも好評で、テキストがあると分かり易いとの声が圧倒的でした。また学内外からも多くのお問い合わせがあり、概ね好意的な評を頂いております。

なお御希望の方には、図書館カウンターにて差し上げています。



お問合せは下記まで。

広島大学図書館学術情報普及グループ 情報ナビゲーション主担当

toshu-fukyu-navi@office.hiroshima-u.ac.jp TEL : 082-424-5631 内線5631

『今中文庫目録』 完成に向けて

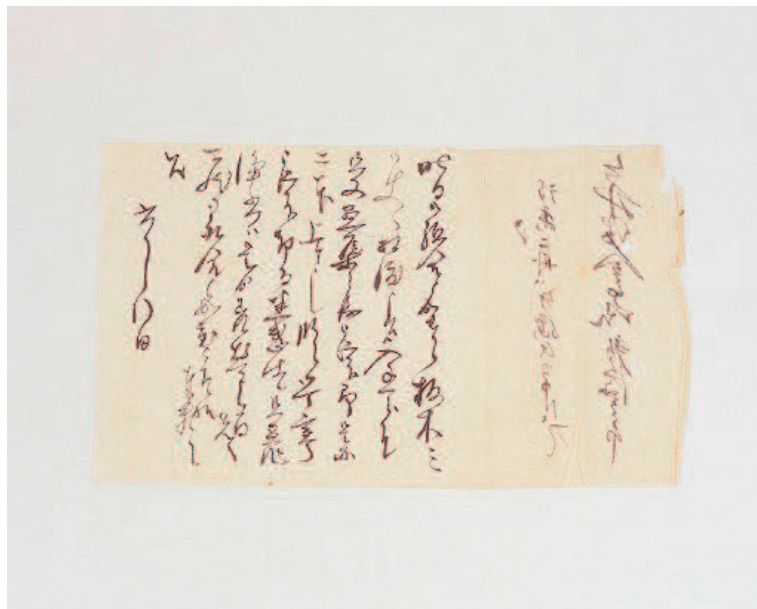
藤川 功和

(研究開発室 助手)

前号『リエゾン』にて研究開発室の主要事業を述べた。その一つである図書館所蔵特別収書今中文庫の整理並びに『今中文庫目録』作成が今佳境に入っている。当初約800点としていた文献は、最終的に1,500点を超えるものとなった。その中心をなすのは、近世広島藩士今中家関係の文書群である。文学研究科中山富廣教授のご指導のもと、カード調査は昨年度末に終了し、現在は主要文献の解説と翻刻の最終段階に入っている。作業が若干遅れたのと予算の都合から、本年度中頃に刊行時期は延びたが、その

分よりよいものに仕上げようと鋭意作成中である。目録は、主要文献の写真と解説、今中家の歴史に関する論考、そして分類別総目録の三本柱からなる。主要文献については、昨年度既にデジタル撮影を完了しており、一部画像は、研究開発室ホームページ上において公開中である(http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/kenkyu_kaihatsu/rd_top.html)。

目録に画像掲載を予定している文献の一例を示そう。以下に掲載したのは、今中文庫分類番号C13—5文書である。



今中文庫分類番号C13—5文書

〔翻刻文〕

詩集二冊ハ竹腰氏書中ニ申入候

今中他人太郎様 頼弥太郎

昨日御駈合被成遣候板木三

御使へ相渡申候間御入手可被下候

且又愚集之儀被仰下節是亦

二本上ケ申候段々御丁寧

被仰下却而迷惑仕候且愚作

浄書ハ是ち差出可申候間先へ

可然御取合被成置被下候様奉頼候

以上

六月八日

当該文書は、頼弥太郎（春水）が今中他人太郎（大学の幼名）に宛てた自筆書簡である。弥太郎は、他人太郎の38歳年長で、安芸国竹原市出身の儒学者。文才豊かで詩をよくし、書にも秀でていた。青壮年期を大阪で過ごした後、天明元年（1781）広島藩儒に登用された。以後、多く江戸に詰め、世子（齊賢）の輔導に努めた。

本文書には、弥太郎が他人太郎に対して、板木をお使いに預けたこと、自作詩集2冊に関して丁重なる依頼は以後は無用のこと、詩集については、別に清書本を後日渡すこと等が記され

ている。大学自身、自筆漢詩集を残していることなどから、当該書簡にみえる如き当代きつての文人との交流を通じて、文事を学んでいたことが推察される。

この他、大学の生きた近世後期広島藩の様子を伺い知ることの出来る資料が目白押しである。『今中文庫目録』刊行の暁には、今中文庫文書群のお披露目も兼ねた記念講演会の開催も密かに計画している。誰あらん私が、今から『今中文庫目録』完成を心待ちにしているのである。

図書館ホームページのリニューアル

江森 早穂

（学術情報普及グループ 情報ナビゲーション主担当）

平成18年4月17日図書館ホームページが新しいデザインになりました。図書館広報委員会では、より利用しやすい画面を目指して、平成17年度当初より、様々な検討を続けてきました。シンプルかつ、より多くの情報を盛り込みたいとの趣旨で、見出しの項目の選択、配置順など、多くの話し合い、調整がなされました。4月1日の公開を目標としておりましたが、内部での

テスト公開などでも、様々な意見がだされ、修正を加えました。

今のところ、このホームページは学内外から好評を頂いております。お知らせ、催しものなどの情報もありますので、是非しばしば図書館ホームページにアクセスして頂き、図書館を十分に活用して頂けたらと願っています。



<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

図書館業務組織の見直しについて

諸富 秀人

(学術情報整備課長)

1. はじめに

2004年4月の国立大学法人化から2年が経過しました。広島大学では、法人化に対応するため、長期にわたって大学の運営組織改革の検討が重ねられ、その結果として学長や副学長のリーダーシップが発揮できる新しい意志決定システムとしてのオフィス制度とそのオフィスを有効に機能させるための支援組織であるグループ制度が導入されました。しかし、国立大学法人へのスムーズな移行を最優先としたため、必ずしも当初意図した理想的なものとはなりません。副学長を室長とするオフィスが出来たものの、これを支援し運営する事務組織体制等の中身の整備が不十分でした。また、業務組織の現場では、移行期の混乱を最小限に抑えるため、法人化以前の組織を踏襲した例が多く見られ、アンバランスな組織となっていました。

2. 大学の業務組織の見直し

法人化後、1年を経過した2005年5月に副学長を増員する等の若干の見直しが行われましたが、さらに業務組織を見直すため学長室のもとに「業務組織・人員検討WG」が組織され、グループの適正規模やグループリーダーのあり方等について検討が行われ、下記のような中間まとめが出されました。

(1) グループの適正規模について

迅速な意志決定、弾力的な組織編成、弾力的な要員配置等のグループ制のメリットを活かすため、グループの構成員の数、グループに置く主査の数等、グループの適正規模の標準モデルを提示する。

(2) グループリーダー等のあり方について

迅速な意志決定を可能とするフラットな組織とするため、グループを再編・統合し、且つグループリーダーの職位を整理・統一する。

各運営組織では、この中間まとめをもとに組

織の見直しを実施することになりました。

3. 法人化後の図書館業務組織の評価

平成16年4月の法人化を期に改革した図書館業務組織が、研究者の情報入手への要求に対応した組織となっているか、学生の多様な能力や学習意欲に柔軟に対応した組織となっているか、そのための業務の効率化やサービス機能が強化されているか、さらに迅速な意思決定ができる組織となっているか等の評価と検証を行いました。

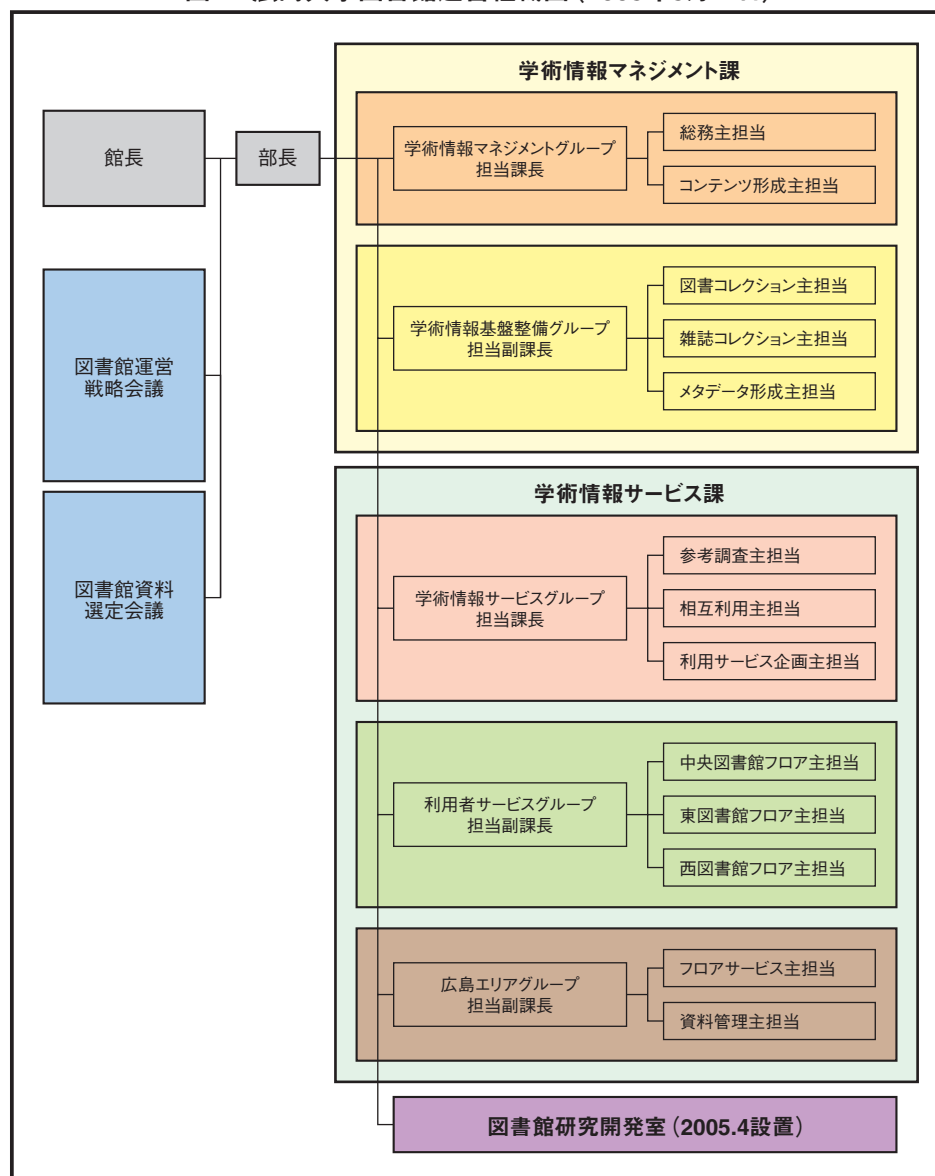
(1) グループ制の検証

グループ制のメリットは、最小の経費でより満足度の高いサービスを提供できること、ニーズの変化に柔軟且つ迅速に対応できること等、縦割り組織による事務処理の弊害を解消し、季節的・時間的業務量の変動に弾力的に対応できることです。しかし、グループ制の導入は法人化以前の行政運営の慣行を大きく変えるものであり、急激な移行による混乱を来さないことを優先させたため、係制時代の業務配分を踏襲することとなり、そのことが結果的に係制時代の意識を引きずってしまうことになりました。職員個々が主担当と副担当の業務を持ち、季節的・時間的業務量の変動に柔軟に対応するとともにグループ内で弾力的に要員を配置する等、当初目指した組織の運営は、係制からの脱却と意識改革が伴わなければ困難であることがわかりました。また、課長がグループリーダーであるグループと副課長がグループリーダーであるグループが混在するため、いわば部課長制とグループ制の折衷的な組織となり、その権限と責任の区分が曖昧でその位置付けが混乱し、フラットな組織にはなりませんでした。

(図1)

(2) 業務組織の見直し

図1 広島大学図書館運営組織図(2005年5月21日)



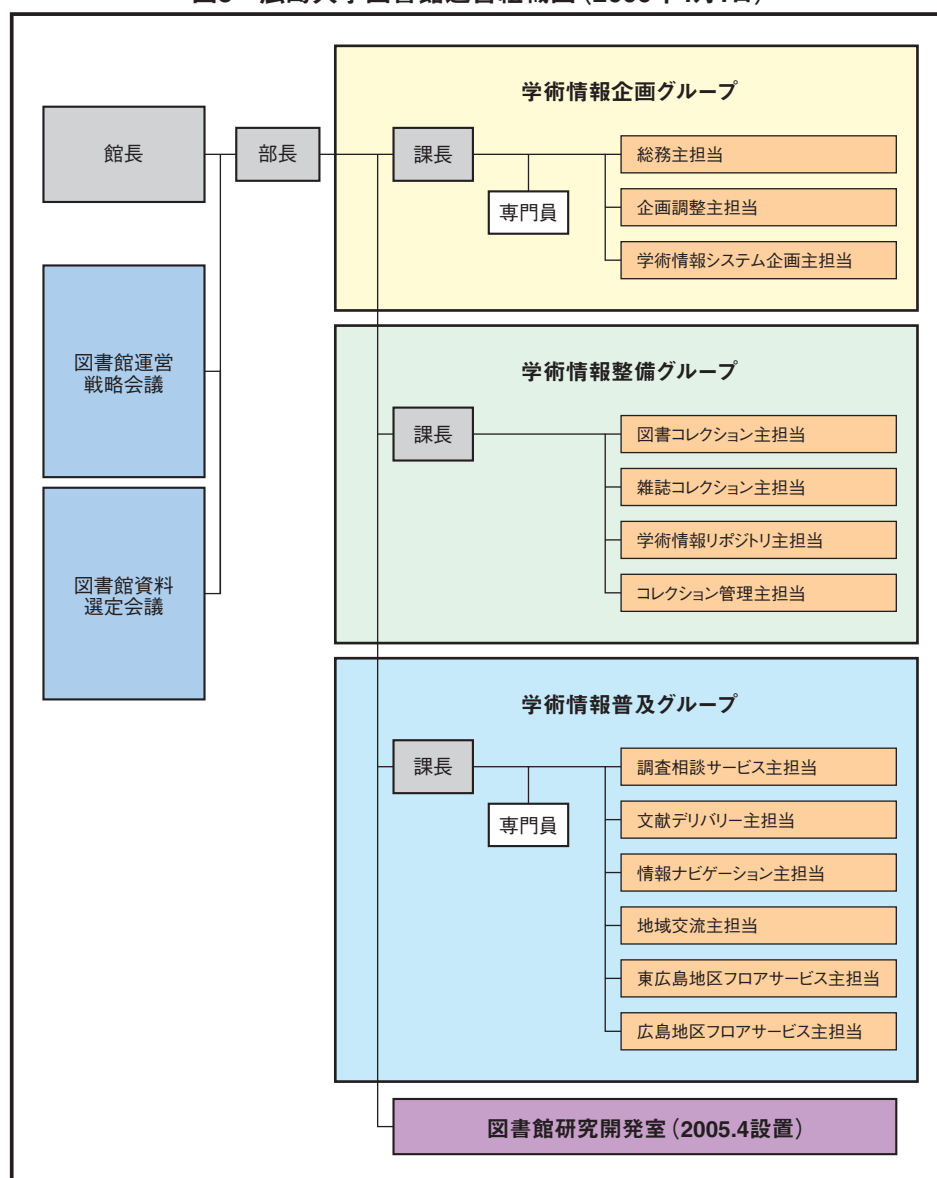
全学で組織する「業務組織・人員検討WG」の中間まとめ及び図書館職員で組織する「図書館長期ビジョン委員会」の報告に沿って検討が進められた結果、次のコンセプトにより業務組織を見直すことになりました。

- ① 図書館の理念と目標（図2）に沿って、図書館が目指す利用者サービスが実現可能な組織とする。
- ② 4館1分室の機能及び役割分担を明確にし、4館1分室が有機的に連携して図書館機能を効率的に発揮する組織とする。
- ③ 限られた人員で組織の質的な向上を図るため、業務内容を見直すとともに業務組

織を見直し、効率的な人員配置とする。

- ④ 小グループでは、総括機能性が充分ではないため、グループを統合して機能性が発揮し易い大グループ制とする。
- ⑤ グループリーダーの職位を統一し、責任を明確にする。
- ⑥ マネジメント業務、バックヤード業務及びフロント業務の3部門の機能区分を明確化し、全体で一体的なライブラリーシステムとして機能させる。
- ⑦ 企画・立案機能を強化・集中する。
- ⑧ バックヤード業務を中央図書館へ集中化する。
- ⑨ フロント業務の中央図書館における統括

図3 広島大学図書館運営組織図(2006年4月1日)



機能を強化し、必要な箇所にサービスポイントを設置する。

4. 新業務組織

(1) 時代に即した業務の見直し

新しい業務組織を検討するにあたり、平成17年6月「図書館長期ビジョン委員会(報告書)」、平成17年6月科学技術・学術審議会・学術分科会「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について(中間報告)」、平成14年3月の科学技術・学術審議会研究計画・評価文化会「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」等で提言されたこれからの図書

館の在り方が参考になりました。図書館の新しいサービス機能として何が求められているか、社会的ニーズは何かを検討し、現行の13タスク(主担当)の見直しを行いました。

(2) タスクの整理

法人化前の係業務の大部分をそのまま承継した法人化後のタスク(主担当)を、次のように整理・統合しました。また、新しいサービス機能に対応するタスク(主担当)を新設するとともに利用者からみて業務内容が判りやすい名称に変更することも行いました。

① 企画・立案機能の強化

- 「企画調整主担当」を新設
- ②学内生成学術情報発信機能の強化・高度化
- 「学術情報リポジトリ主担当」を新設
- ③社会・地域との一層の連携推進
- 「地域交流主担当」を新設
- ④体系的な資料の配置・保存方策の策定と収蔵スペースの狭隘化への対応
- 「コレクション管理主担当」を新設
- ⑤図書の発注・受入業務と目録等整理業務の一体処理
- メタデータ形成主担当を図書コレクション主担当に統合
- ⑥バックヤード業務の集中化
- 広島エリアグループの資料管理主担当を、中央図書館図書コレクション主担当及び雑誌コレクション主担当へ統合
- ⑦東広島地区のフロント業務の一部を中央図書館へ集中
- 中央図書館フロア主担当、東図書館フロア主担当及び西図書館フロア主担当を新設の東広島地区フロアサービス主担当に統合
- ⑧従来の主担当の名称を利用者からみて業務内容が判り易い名称に変更
- 利用サービス企画主担当を利用者が求める学術情報へ誘導する「情報ナビゲーション主担当」に変更
- 従来の参考調査やレファレンスという語から想起する漠然としたイメージをより具体的で判りやすい「調査相談サービス主担当」に変更
- 図書館間相互利用を担当する相互利用主担当を「文献デリバリー主担当」に変更

(3) グループの再編

業務組織見直しのコンセプトに従い、従来の5つのグループを次の3つのグループに統合・再編し、業務区分と責任を明確にしたフラットな業務組織としました。また、グループリーダーを課長相当職に統一し、従来の副課長がグループリーダーとなるグループは設置しないこととしました。(図3)

- ①学術情報企画グループ：マネジメント部門として、全学的な図書館事業の企画立案及び実施を所掌する。
- ②学術情報整備グループ：バックヤード部門として、全学的な学術情報資源の形成・整備・構築を所掌する。
- ③学術情報普及グループ：フロント部門として、全学的な学術情報の利用普及、顧客開発及び社会連携を所掌する。

この3つの新しいグループに対して、4-(2)で整理・統合・新設した13のタスクが最も効率的且つ最適に実行可能なグループイングとしました。

この新業務組織は、固定的なものではありません。整理・統合・新設したタスクの運用課程で評価と見直し(Check & Action)を随時行い、常に最適な組織とします。また、今後の人的資源の減少に対応し、少ない人員で効率的に業務を遂行するため、必要に応じて柔軟に人員配置ができるものとしています。

5. おわりに

平成16年4月の法人化を期して改編された業務組織の見直しは、法人化前の業務組織の踏襲による弊害の解消と合わせて、新規サービス機能を展開するために実施されたものです。今後も、図書館を取り巻く、学術情報の流通環境や社会的ニーズの状況に応じて柔軟な発想で見直しを行っていくことが必要です。

法人化後2年を経過し、各国立大学法人においても大学運営組織の見直しが行われています。それに伴い、学内における図書館の位置付けが劇的に変化しようとしています。平成18年4月の国立大学法人における図書館は、図書館組織そのものが解体的見直しをせまられている大学もあります。大学運営組織の見直しによる業務組織の整理・統合が図書館をも巻き込み、図書館事務部が他の組織との整理・統合により縮小していく傾向にあります。

平成18年3月科学技術・学術審議会・学術分科会「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」では、『大学図書館は、大学の教育研

究活動を支える重要な学術情報基盤であることを学内で明確に位置付けることが必要である』と明記されています。大学における図書館の位置付けの低下は、当該大学における学術情報基盤そのものが弱体化することであり、ひいては大学の教育・研究に多大な支障をきたすことにもなります。

図書館職員は、学術情報を扱う高度の専門性・国際性を持ち、もちろん、不断のスキルアップの努力が必要ですが、大学における学

習及び教育研究を支援する役割を担っています。図書館は、図書館長のリーダーシップの下に大学における学術情報基盤に関わる意思決定のイニシアティブを発揮するため、その役割に応じた組織・運営体制を強化してゆく必要があります。今回の業務組織の見直しにより、本学の理念達成を支援するための体制が整ったと言えます。今後も、図書館が本学にとっての重要な学術情報基盤であり続けることを願っています。

(図2)

広島大学図書館の理念

広島大学図書館は、本学の建学の精神及び理念を実現するために行われる教育・研究を支援するための基盤的組織として、図書・雑誌等の電子的資料を含む学術情報資源を収集・整理・保存し、学生及び教職員等の利用者に提供することを使命とする。

また、本学で生成される学術情報を国内外に発信することで、本学の教育・研究の進展に寄与し、その成果をととして国内外、地域社会における学術研究の進展及び文化の振興に貢献する。

広島大学図書館の目標

- (1) 利用し易い図書館を目指す。
- (2) 利用される図書館を目指す。
- (3) 学術情報の収集機能の一層の強化を図る。
- (4) 従来からの紙媒体による学術情報に加えて、電子ジャーナル等電子的学術情報を一層充実させ、ハイブリット・ライブラリを構築する。
- (5) 学生の自学自習活動のための快適でゆとりのある学習環境を提供する。
- (6) 電子的図書館機能の充実・強化を図る。
- (7) 学内で生成される研究成果情報を発信するポータル機能を担う。

平成17年度図書館事業報告

講演会・シンポジウム等

平成17年8月以降に、広島大学図書館が開催した講演会をご紹介します。学内外から多数のご参加をいただきました。

（講師等の所属は開催当時のものです。）

①講演会「情報探索ソリューション開発の真相：Scopus開発者が語る」

開催日：平成17年8月25日（木）

講師：Andrea Kravets氏（Vice President, User Centered Design, Reed Elsevier）

②第1回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー

「大学図書館職員事始め：人的ネットワークを求めて」

開催日：平成17年9月9日（金）

*中国・四国地区国立大学図書館協会及び九州地区国立大学図書館協会の主催。



③Library Navigator Series 3 被爆60周年記念講演会

「原爆報道・戦後体制と平和構築；広島大学図書館平和学コレクションの自著を語る」

開催日：平成17年10月18日（火）

講演1：モニカ・ブラウ氏（Stockholm School of Economics, The European Institute of Japanese Studies（欧州日本研究所）主任研究員）

「Discovering the reasons for American censorship of the atomic bomb in Japan
（邦題：アメリカによる原爆報道検閲の理由とは何か）」

講演2：廣渡清吾氏（東京大学社会科学部教授、日本学術会議会員）

「戦後責任を考える；日本とドイツの比較から」

ディスカッション：二つの講演を巡って

松尾雅嗣氏（広島大学平和科学研究センター長）

*広島県大学図書館協議会及び広島大学平和科学研究センターとの共催。



④学術講演会「米国大学図書館職員のファカルティ・ステータスについて；その形成プロセスを考察する」

開催日：平成17年11月21日（月）

講師：シャロン・ドマイヤー氏（マサチューセッツ大学アマースト校図書館）

* 広島県大学図書館協議会との共催。

⑤学術講演会「電子ジャーナル・コンソーシアム最前線レポート」

開催日：平成18年2月15日（水）

講師：市村櫻子氏（東京大学附属図書館）

⑥講演会「患者さんへの医療情報提供と地域貢献；病院図書室と医学図書館の連携を目指して」

開催日：平成18年3月9日（木）

講演 1：浅原利正氏（広島大学病院長）

「大学病院での情報提供のあり方について；病院図書室と図書館との連携」

講演 2：桑原文子氏（東京女子医科大学司書課長補佐（「からだ情報館」）

『「からだ情報館」での取り組み；患者さんのための情報提供サービス」

講演 3：大瀧博久氏（鳥根大学附属図書館）

「鳥根大学医学部附属病院における患者図書室の設置と運営；医学図書館との連携」

* 広島大学病院との共催。

主要行事等報告（2005年7月～2006年5月）

行事等

- 17.7.1 講演会「お伽草子を聴く、観る、読む」
地域交流プラザ・オープニング・セレモニー
- 17.7.15 広島大学図書館公開研修発表会
- 17.8.4－10 広島原爆被ばく60周年記念展示会（紀伊國屋書店広島店）
- 17.10.18 被爆60周年記念講演会「原爆報道・戦後体制と平和構築」
- 17.11.21 学術講演会「米国図書館職員のファカルティ・ステータスについて」
- 18.2.15 学術講演会「電子ジャーナル・コンソーシアム最前線レポート」
- 18.3.9 講演会「患者さんへの医療情報提供と地域貢献」

館内会議等

- 運営戦略会議 17.4.11、17.7.19、17.10.20、(17.12.12)、18.3.15

- 事務連絡会 17.4.28、17.5.27、17.6.27、17.8.1、17.10.4、17.11.2、
17.11.25、17.12.27、18.1.24、18.2.27、18.3.24

会議等（学外）

- 17.7.4 大学図書館職員長期研修（国立オリンピックセンター）
- 17.7.7 ライブラリー・コネクト・セミナー（京都リサーチパーク）
- 17.7.22 国大図協経営問題委員会（大阪大学）
- 17.7.28 国立大学図書館協会人材育成班会議（国際高等セミナーハウス）
- 17.8.25 電子図書館国際会議（名古屋大学）
- 17.8.25 中国四国地区コンソーシアム懇談会（広島大学）
- 17.8.30 学術ポータル担当者研修（名古屋大学）
- 17.9.2 広島県大学図書館協議会第1回研修会（広島国際大学）
- 17.9.3 日本図書館協会・中国ブロックの集い（広島修道大学）
- 17.9.9 国大図協中国四国地区・九州地区フレッシュ・パーソン・セミナー（広島大学）
- 17.9.12 国立情報学研究所実務研修（NII）
- 17.9.15 日本医学図書館協会「協会賞・奨励賞選考委員会」（国際医学情報センター）
ILLシステム地域講習会（岡山大学）
- 17.9.20 千葉大学学術成果リポジトリ公開記念シンポジウム（千葉大学）
- 17.9.26 情報処理軽井沢セミナー（NII、国立女性教育会館）
- 17.9.27 学術ポータル担当者研修（NII）
- 17.9.28 国立大学附属図書館の現状と課題についてのオープンディスカッション
（京都大学）
- 17.10.6 国立大学図書館協会中国四国地区実務者会議（島根大学）
CSI推進のための委託業務に係る説明会（NII）
- 17.10.11 大学図書館職員講習会（京都大学）
- 17.10.12 図書館等職員著作権実務講習会（福岡市教育センター）
- 17.10.14 日本医学図書館協会企画・調査委員会（大阪歯科大学）

- 17.10.20 中国四国地区大学図書館協議会研究集会（香川大学）
- 17.10.27 国大図協経営問題委員会、総務委員会、人材委員会、理事会（北海道大学）
- 17.11. 4 広島県大学図書館協議会第3回研修会（広島工業大学）
- 17.11. 7 国大図協人材委員会人材育成班打合せ（筑波大学）
- 17.11.11 中国四国地区大学図書館所管部課長会議（岡山大学）
- 17.11.16 国立大学図書館協会シンポジウム（岡山大学）
学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大学）
- 17.11.17 日本医学図書館協会中国・四国部会総会（川崎医科大）
広島県内大学図書館等及び公共図書館ネットワーク会議（広島県立図書館）
- 17.11.18 2005年度国際図書館協力シンポジウム（関西大学）
- 17.11.22 金沢大学自然科学系図書館開館記念シンポジウム（金沢大学）
国大図協第2回協会賞等専門委員会、第1回協会賞審査委員会合同会議（広島大学）
- 17.11.25 CSI構築推進委託事業実務担当者会議（NII）
- 17.11.30 平成17年度NAIST電子図書館学講座（奈良先端科学技術大学院大学）
- 17.12. 5 国大図協人材委員会人材育成班打合せ（NII）
- 17.12. 8 学術情報機構シンポジウム2005（山口大学）
- 17.12. 9 著作権セミナー（広島県立図書館）
大学図書館員のためのスキルアップセミナー（岡山大学）
18. 1.11 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
18. 1.26 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
18. 2. 2 国大図協人材委員会人材育成班打ち合わせ（広島大学）
18. 2. 8 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
18. 2. 9 長崎大学附属図書館連続講演会「学術機関リポジトリ」（長崎大学）
18. 2.15 CSI構築推進委託事業実務担当者会議（NII）
18. 2.20 国大図協経営問題委員会・小委員会合同会議（大阪大学）
18. 2.21 NACSIS-CAT/ILL講習会実施検討会議（NII）
18. 2.22 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
18. 2.24 ストックホルム国際平和研究所研修（SIPRI）
18. 3. 2 大阪大学附属図書館学術講演会「電子図書館の現状と未来」（大阪大学）
18. 3. 3 九州大学理系図書館開館説明会（九州大学）
18. 3.15 日本医学図書館協会 協会賞・奨励賞選考委員会（IMIC）
18. 3.23 広島県内図書館ネットワーク検討WG会議（広島県立図書館）
18. 4.19 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業委託事業公募説明会（NII）
18. 4.20 中国四国地区大学図書館協議会総会（高松市文化芸術ホール）
18. 4.21 国大図協中国四国地区協会総会（高松市文化芸術ホール）
18. 4.26 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
18. 5.18 国大図協中国四国地区協会理事館等部長会議（広島大学）
18. 5.18 LLシステム講習会（NII）
18. 5.24 広島県大学図書館協議会研修企画委員会（広島大学）
広島県大学図書館協議会幹事館連絡会議（広島大学）
18. 5.25 日本医学図書館協会総会（ウィルあいち）
18. 5.26 国大図協経営問題委員会（東京大学）
国大図協理事会（東京大学）

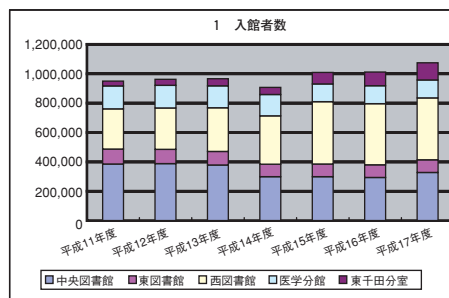
来館者・見学者（来訪順）

日本産業退職者協会広島支部、老人大学、安芸郡熊野町立熊野中学校、島根大学、三原市立南方小学校、東京大学図書館、宮崎大学、韓国教員大学、女性連合会河内町支部、大学評価・学位授与機構、尚志会大阪支部、一橋大学、高知大学、広島県立広島高等学校（職場体験）、鹿児島大学、大阪大学、金沢大学、信州大学、健康福祉大学10期歩こう会、大阪大学、東城ふるさと今昔講座参加者、鳥取大学、福山中学校、Flinders大学、河南省教育厅

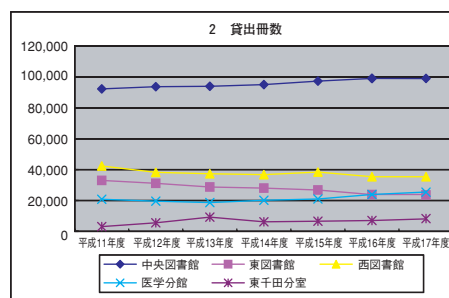


広島大学図書館統計

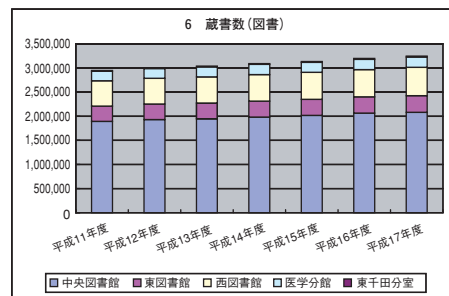
1 入館者数								人
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	
中央図書館	384,950	387,846	378,261	298,582	298,810	293,405	326,966	
東図書館	101,635	96,535	91,913	84,714	86,232	85,926	84,628	
西図書館	273,312	281,888	297,733	329,627	423,767	416,297	429,372	
医学分館	156,717	153,966	149,330	145,019	121,231	122,089	133,778	
東千田分室	32,974	41,767	48,575	48,510	78,763	93,847	102,147	
計	949,588	962,002	965,812	906,452	1,008,803	1,011,534	1,076,891	



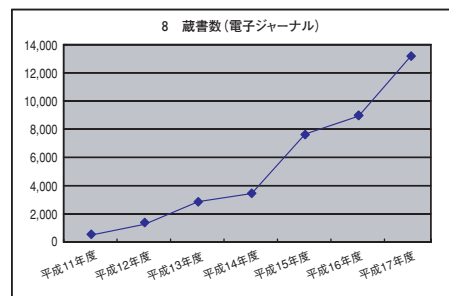
2 貸出冊数	冊						
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
中央図書館	92,233	93,632	93,952	95,034	97,263	99,006	98,698
東図書館	32,981	31,102	28,744	28,022	26,798	23,807	23,073
西図書館	42,314	38,224	37,322	36,757	38,382	35,353	35,725
医学分館	20,758	19,542	18,668	20,155	20,955	23,879	24,377
東千田分室	3,102	5,582	9,225	6,206	6,614	7,056	7,947
計	191,388	188,082	187,911	186,174	190,012	189,101	189,820



3 参考調査							件
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
中央図書館	6,769	6,775	6,790	8,555	9,552	12,990	9,711
東図書館	5,180	3,328	2,816	2,827	2,860	2,849	2,279
西図書館	5,234	5,024	4,706	3,135	3,166	4,304	3,442
医学分館	4,890	4,832	4,928	5,027	4,854	5,029	5,145
東千田分室	526	662	804	1,012	1,417	3,025	3,161
計	22,599	20,621	20,044	20,556	21,849	28,197	23,738



4 文献複写(相互利用(受付・依頼))								件
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	
中央図書館(受付)	6,585	6,651	5,776	5,290	7,531	7,261	5,387	
(依頼)	8,270	8,566	6,727	5,752	6,335	5,172	5,566	
東図書館(受付)	4,207	4,480	4,471	2,602	2,208	2,319	1,028	
(依頼)	3,706	3,370	2,688	1,903	1,853	788	1,067	
西図書館(受付)	3,457	3,629	3,515	3,176	2,669	2,192	769	
(依頼)	2,431	2,135	2,474	1,858	1,305	1,107	808	
医学分館(受付)	7,582	7,055	7,341	6,754	6,252	5,059	4,173	
(依頼)	7,985	7,593	5,618	5,748	4,264	3,508	3,609	
東千田分室(受付)	24	1	71	140	146	74	63	
(依頼)	126	187	221	333	640	1,263	1,001	
計(受付)	21,855	21,816	21,174	17,962	18,806	16,905	11,420	
(依頼)	22,518	21,851	17,728	15,594	14,397	11,838	12,051	



5 相互貸借(貸出・借受)							件
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
中央図書館(貸出)	780	1,788	1,800	649	922	915	1,115
(借受)	1,234	1,379	1,592	1,348	1,308	1,342	1,394
東図書館(貸出)	122	188	190	67	63	104	56
(借受)	83	73	55	51	62	142	69
西図書館(貸出)	504	388	341	352	423	357	376
(借受)	411	250	203	219	182	358	368
医学分館(貸出)	36	72	73	76	120	129	177
(借受)	202	264	196	218	190	350	426
東千田分室(貸出)	121	35	160	151	172	161	229
(借受)	250	46	344	354	461	504	796
計(貸出)	1,563	2,471	2,564	1,295	1,700	1,666	1,953
(借受)	2,180	2,012	2,390	2,190	2,203	2,696	3,053

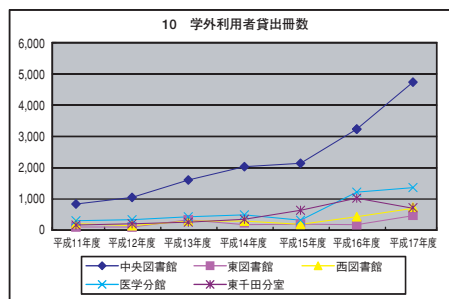
6 蔵書数(図書)							冊
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
中央図書館	1,891,984	1,929,170	1,944,983	1,981,177	2,015,835	2,062,525	2,087,915
東図書館	316,416	321,677	326,165	330,280	333,473	337,786	341,942
西図書館	525,399	533,815	542,197	549,504	558,993	564,325	569,763
医学分館	197,437	202,091	207,208	212,501	206,905	213,789	216,993
東千田分室	15,960	16,708	17,456	17,080	18,620	20,761	22,347
計	2,947,196	3,003,461	3,038,009	3,090,542	3,133,826	3,199,186	3,238,960

7 蔵書数(雑誌)							種
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
中央図書館	28,098	30,093	30,303	30,163	32,206	32,224	32,545
東図書館	8,762	9,121	9,187	9,355	9,898	9,693	9,814
西図書館	4,235	3,881	3,930	4,019	4,250	4,260	4,263
医学分館	8,439	8,473	8,568	7,940	8,287	8,357	8,511
東千田分室	109	239	251	318	377	430	453
計	49,643	51,807	52,239	51,795	55,018	54,964	55,586

8 蔵書数(電子ジャーナル)							種
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
計	627	1,381	2,955	3,521	7,662	8,910	13,223

9 電子ジャーナル利用統計(対象は国立大学図書館コンソーシアムの主要出版社のみ)					
		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
タイトル数(種)		3,240	4,116	4,404	4,415
Full Textダウンロード件数		209,877	374,569	435,318	560,986

10 学外利用者貸出冊数								冊
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	
中央図書館	829	1,041	1,600	2,027	2,135	3,230	4,776	
東図書館	93	91	321	168	184	168	406	
西図書館	199	135	281	282	179	423	665	
医学分館	294	328	421	481	311	1,210	1,406	
東千田分室	156	195	248	340	629	1,017	662	
計	1,571	1,790	2,871	3,298	3,438	6,048	7,915	



トピックス

★職員向け情報リテラシー研修会

「Web of Knowledge」を開催。(05.8.3)
図書館員誰もがDB講習会の講師をつとめられるようになることを目標に、初の試みとして開催された。(東図書館情報リテラシー研修室)

★「広島原爆被ばく60周年記念展示会：

1945年の夏が見えます」を開催。
(05.8.4～8.10)(紀ノ国屋書店広島店にて開催)
<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/higashi/>

★東図書館のホームページを開設。(05.8.12)

広島大学図書館ホームページとは別に、東図書館独自の内容を持つホームページを開設。
<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/higashi/>

★「広島大学フェニックス文庫」開設。

(05.10.28)

中央館2階に開設されたこの文庫は、広大教員著作寄贈制度により学内研究者から寄贈された出版物、広大紀要などによって構成されている。

★「平和学コレクションコーナー」設置。

(05.11.11)(詳細は8頁)

広島大学平和科学研究センターが発足以来収集してきた図書を中心に、本学が所蔵する平和学関連資料約1万点を集めたコレクション。

★中央図書館アメニティスペース西側にお茶など飲み物の自動販売機を設置。(05.12.9)

★西図書館のBlogを開設。(06.3.24)

西図書館の試行ブログを開設。

<http://blog.goo.ne.jp/24toshio/>

★「広島大学生のための情報探索ガイド」刊行。

(06.3.31)(詳細は26頁)

★図書館ホームページリニューアル。(06.4.17)

(詳細は28頁)

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

★「学術情報リポジトリ」始動。(06.4.1)

学内で生産された論文などの教育研究成果物を収集・蓄積・保存し、学内外に無償で公開するシステムを構築中。
(詳細は3頁)

★研究開発室のホームページを開設。(06.5.18)

これまでの活動状況と今後のスケジュール、図書館所蔵の貴重資料の紹介を掲載。

http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/kenkyu_kaihatsu/rd_top.html

★「原爆と峠三吉の詩」原爆展を開催。

(06.6.28～7.1)

(中央図書館地域交流プラザ)

広島大学図書館「リエゾン」 Vol.31 2006年7月31日 発行

発行 広島大学図書館 〒739-8512 東広島市鏡山1丁目2-2

電話 (082)424-6200

編集 広島大学図書館広報委員会